

畫家たるミレーは田園に於ける勞働の高潔なるを畫題としぬ。
風景畫家たるコツトマンは多く田園の風物より素朴なる美
を寫したるなり

一八〇六年ノールウイツチに居往の以前には水彩畫の作はなかりき。油繪の初めはサウスゲート、ヤーマウスなるべし。こはアーサーサムエル氏の有にして一八一〇年と日附あり。この組立はエツチングの同題目のと全一なり。粗末なるものにて筆力雄健に、色彩の沈靜と重鎮あれども、これが爲に色彩は朦朧たらざるなり。高尚にして力ある、單一なる構想を離れて、此繪畫の重なる美點は秋景の色調の艶澤と調和と、明瞭にして溫和なる空氣に存するなり。これより後氏か手法の變化は水彩畫に於て殊に著しかり。此の變化は徐々により強き最も生々したる色彩を益々使用するやうになりもて行きけるなり。一八〇八年或は一八〇九年の作といふトレンサムの如き殊に一八一〇年の作のドレーニングミル、マウスホールド、ニースの如き變化の度を増したるものにて、一八〇七年作のトウイツクンハムの快活なるに比して、色彩の深さと暖さとを増しつゝあるなり。英國畫館にあ



第二十五回 葛 蒲

るデイスマスステツドブリツグは例外なり。色彩は殊に美ならざるにあられど、運筆の輕快に又精確なるなり。此の畫の作製後ヤーマウスに居を卜して日常海岸の風物に接しぬ。此の故はノールウイツチの風景に飽げるなるべし、

氏は一八〇九年に結婚しぬ。繪畫教授も報酬案外に少かりき。ヤーマウスの好古家ダウソン、ターナーの勸誘にて、こゝに引移りしかども、ノールウイツチとの關係は絶たて、折々門生をも訪れけるなり。

當地に着してからといふものけ、毎日の降雨で寫生に出る事が出来ないで大に閉口、加ふるに非常に出水で、橋が流るゝ家が流るゝ、山がくづるといふ始末で、僕等の居る旅亭も崩れ落ちはせぬか等、それはく心配一通りでなかつたが、漸く晴天となつて先は無事に濟んだのは幸福である。天氣になつたは嬉しいが、炎熱はこの山里にも押かけ來たりて、草蒸れの暑さといつたら丸で火山の穴の中にでも居るやうである、今は毎日く、山を登つたり谷に下りたりして居るよ（上州吾妻河畔に旅行中の晚霞氏通信の一節）